

礼拝アウトライン 1月 5 日

1部：光の神殿回復(1コリント 3:16)

創世記 3 章以来、時代ごと暗闇が国々を掌握して災いをもたらし、神様はそこに光の戦士を起こして暗闇を碎き災いを止めて、そこに3庭のある教会を建てられたように、これから 237(5000)に同じことがなされることを契約として握った信者は、残された者の祈りが 24 になり 3 庭になる御言葉の成就を見るようになる。

この御言葉のやぐらが…

1. 私の中に建つように祈る。

- 1) やぐらが働く約束を信じて
- 2) この力で御座の旅程を歩み
- 3) あらゆる所に御座の道しるべが建つように祈る。

2. 教会の中に建つように祈る。

- 1) 多民族(未信者)
- 2) 癒し
- 3) RT

3. 現場に建つように祈る。(パウロ)

- 1) 使徒 13、16、19-異邦人
- 2) 使徒 13、16、19-癒し
- 3) 使徒 17、18、19-会堂
- 4) ローマに向かい

信者個人、教会、現場に光の神殿が回復されると、大国に想像を超える神のわざが現れ、暗闇のやぐらが碎かれ、世界を変える福音化がなされる。光をもつ小さな祈りと献身は世界を変えることを信じて祈ろう！

2部：なぜ私に確信がないのでしょうか。

1ヨハネ 5:11-13

教会に通いながら「自分は確信などないよ」と平気で言う信者がいます。言葉にしなくても確信とは程遠い生き方をする人もいるし、確信がない故に何かに没頭する信者もいます。なぜ信者なのに確信がないのでしょうか。

1. まず、救われた人にいのちが与えられていることが分かっていないからです。

- 1) イエス様を正しく知り、心から認めて、口で告白し受け入れた人を救われた人と言います。(ヨハネ 1:12、黙示録 3:20)
- 2) そしてこのようにイエス様を受け入れた人であれば、自分の力とまったく関係なくその人の内に聖霊が宿るようになります。これをいのちと言います。(ローマ 8:2、1コリント 3:16, 12:3)
- 3) このいのち(聖霊)のない人はどういう状態でしょうか。

- (1) 墟落によりいのちを失ったアダムとエバ(救われる以前)と同じ状態です。
- (2) 当然その人の靈はサタンが支配しているので(ヨハネ 8:44、使徒 10:38)
- (3) 多くを所有しても真の平安はなく(マタイ 11:28)
- (4) 何かを達成したとしても争いは続きます(マタイ 12:25)。
- (5) そして、知らず知らず人生はサタンに導かれます(エペソ 2:2-3)。
- (6) 結果、肉体は病を患うようになり(使徒 8:4-8)
- (7) 心も精神も病みます(使徒 16:16-18)。
- (8) そしてこの世を離れると地獄に行くしかありません(ルカ 16:19-31)。
- (9) イエス・キリストによる救いは、こ

の死の状態が終わりいのちに預かることです。

2. そして、救われた人の祝福を知らないから揺れるのです。

- 1) 救われた人は災いと裁きの理由になる罪より解放されます(エペソ 2:1)。

- (1) 原罪 (2) 罪科 (3) 偶像崇拜の罪(先祖)

- 2) 救われた人は、世の重荷や今も世を支配しているサタンの支配から解放されます(エペソ 2:2)。

- 3) 救われた人は地獄の勢力から永遠に解放されます(エペソ 2:6)。

- 4) その結果、救われた人は地上において世々に渡り証拠を見せるようになります(エペソ 2:7)。

3. 救われた人にある特権を知らないので確信がもてません(マタイ 16:13-20)。

- 1) 信者だけに福音宣教の特権を与えられました。

- (1) 信者を岩のようにして(救い)
- (2) 教会を建てる(伝道)と言われました。

- 2) そのため信者だけにサタンに勝てる特権が与えされました。

(1) なので戦う姿勢で立ち向かいます。(ペテロ 5:8、ヤコブ 4:7)

(2) 勝つまで戦う姿勢が求められます。

3) 信者だけに祈りの答えの特権が与えられました。

(1) 信者の祈りは天の御國の鍵であり
(2) 未信者の祝福は滅びの運命の中で神様が許されたものです(箴言 16:4)。

4. 救われた人の生き方を知らないと揺れています。

1) 救われた信者は聖霊の導きに従う者です。(ヨハネ 14:26-27)

(1) そのために、思い煩いを捨て(ペテロ 5:7)

(2) 自分を諦め(ガラテヤ 2:20)

(3) 人間的計算を捨てるべきです。神の靈は人に騙されないし、結局失敗に終わるからです(使徒 5:1-10)。

2) ですから、聖霊に導かれるためには
(1) 人生の中心がイエス・キリストになるべきです(コリント 5:17)。

(2) 祈りが生活の優先順位でなければなりません(使徒 16:13, 16)。

(3) 人生のすべての方向が福音宣教に向かうと聖霊に導かれます(使徒 1:8)。

1部-ルカ 11:37-52 信徒(教会)の決断

なるほど/サタンはこの世(現場)を絶対解決不可能な靈的問題に閉じ込めて、そこに答えを伝えるべき教会が違うことに走るように惑わしていることを改めて、信徒(教会)の存在意義を改めて新年に備える年末が望ましい。

ならば、「Only キリスト、絶対キリスト、キリストで充分」と命懸けで信仰告白をしよう!「唯一の問題、唯一の答え」を心に刻み、マタイ 6:31,33 を決心して、使徒 1:7-8 を握って祈ろう!

2部-1ヨハネ 5:11-13 なぜ私には確信がないのか?

なるほど/救われた人に与えられたいのちがよくわからないこと、完全なる救いの祝福を知らないこと、それで暗闇に打ち勝って人を生かせる特権があることを知らないこと、その為に聖霊に導かれる新しい勝利の生き方を知らないで味わえないことで救いの確信が持てない。

ならば/いのちは神様の恵みによる賜物であることを黙想して、すべての条件から自由になろう!過去、現在、未来の全てが変わったことを信じ味わおう!福音宣教に人生の方向を合わせて、聖霊の導きに従おう!